

税金とは、何だろう。

松江市立玉湯中学校 3年 多野 彰真

税金とは、何だろう。私たちが店で買い物をする時に払う、消費税。働くようになって、給料から支払われる所得税。世の中には税と名のつくものがたくさんある。広辞苑で税について調べてみると、「国費・公費支弁のため、国家・地方公共団体の権力によって、国民から強制的に徴収する金銭など。」と書いてある。つまり、国などが使うお金をみんなで負担しよう、ということだ。

私には弟がいる。障がいを持った弟だ。幼い頃は体が弱く、しょっちゅう入退院を繰り返していた。私はまだ、その頃は小学校の低学年だった。病院の病棟の前で、弟につきそう家族と別れた記憶は今も残っている。今の弟があるのは、病院に入院し、そこで治療をしてもらったからだ。

でも、弟の命を救うために行う治療にもお金がかかっている。さらに入院の費用なども含めると、その額は膨大なものになる。それを全て私たちの親が払っていたら、私たちの家族はとうに破産していただろう。でも、実際はそうではない。

障がい者には「障害者手帳」という手帳が配られる。この手帳を持っていると、医療費の助成が受けられる。さらに、私たちの住んでいる地域では、小学六年生までの全ての子どもは、病院に行っても本人負担は無し、私たち中学生も三割負担で済む。だから、私の弟が幾度となく医療機関を利用しても、高額な福祉サービスを受けても、我が家は破産しなかったのだ。

では、その分のお金はどこから出されたのだろうか。答えは「税金」だ。つまり、市や県、国が税金を使って払ってくれたのだ。

税金とは、何だろう。私は、みんなで助け合って生きていくための、助け合いの象徴だと思う。誰か一人のためにあるのではない。私たち全員の生活のためにあるのだ。そして、みんなの生活を支えている。税金を払える人は平等に払わないといけなし、みんなが平等に幸せな毎日を送れるように使われないといけなし。生活していくのに必要な助け合いの一つの形、それが「税」のシステムだと思う。時代によって米だったり、現金だったりしても、このシステムはずいぶん昔から存在している。そして、より平等なものへと進化し続けているはずだ。

私も、大人になって、一人前に税金を納める年齢になれば、この「助け合い」のシステムに参加することになる。その時には「自分たちの納める税金が何かの役に立っていること」を忘れないようにしたい。税金を払っているのは私たちだ。どうやったらこの「助け合い」のシステムが絵空事になってしまうのを防げるか、どうやったらもっと「税金」が進化できるか、考えていきたいと思う。

そして、一人一人に考えてほしい。

「税金とは、何だろう。」

と。